

一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

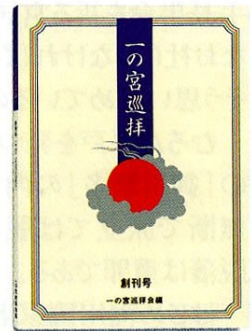
事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159
E-mail：junpai@sekinomiya.com

「一の宮巡拝会 近畿ブロック交流会」開催

去る6月18日(日)に奈良市生涯学習センターにて標記の交流会が開催されました。当日は早朝奈良市春日大社に集合し正式参拝の後、中瀬光雄近畿ブロック世話人の進行で行われた第1回交流会では、百万人巡拝に向けてのアイデアや奈良一の宮シンポジウムについて熱気あるディスカッションがなされました。特に今回は一の宮巡拝会顧問の齋藤盛之先生に「神様の地縁」と題しての講演をいただき好評の中終了いたしました。また、関口代表から以下の活動の報告がありました。1)平成18年3月5日入江孝一郎先生一周忌の法要を会員の有志で行いました。2)平成18年5月13日～14日中部ブロックの横井氏を中心に会員有志が集い「織田信長敵味方鎮魂地球平和祈願祭」を越前二の宮劔神社で田中範夫宮司により齊行されました。また、前日には越前国一の宮気比神宮にお参りをいたしました。3)雑誌「一の宮巡拝」が5月初旬に完成、順次会員に配布いたしました。まだまだ一の宮を知っている人たちが少ない中是非多くの人たちに読んでいただき、少しでも多くの方に巡拝の良さを知っていただきたい。また、9月16日～17日に開催される「奈良一の宮シンポジウム&社叢百景展」については既にポスターも完成し、ご講演の先生方のご了解も得られたことなどが報告されました。(事務局)

一の宮巡拝会
入会申し込み受付中！

数千年の昔からご鎮座する一の宮神社。そこには癒しの森が広がり悠久の昔から今日まで連綿と受け継がれて来ました。日本人の叡智と日本人の心の再発見の場となる一の宮。全国108社を巡拝しお互いの情報交換を行う本会に是非ご入会ください。(年会費¥3,000)ご入会の方には年刊誌「一の宮巡拝」頒価¥2,000(上製本128頁)を無料配布いたします。入会などお問い合わせは事務局へ。



年刊誌創刊号

【創房関宮(有) 内一の宮巡拝会事務局】
〒666-0111 兵庫県川西市大和東2-13-10
電話：072-791-5158
FAX：072-791-5159
E-mail：junpai@sekinomiya.com

平成十八年度一の宮巡拝会 交流会
総会(巡拝)開催決定！

本年度の総会・関東ブロック交流会は東京で開催する事になっていましたが、会場の確定が遅れご案内が今号になりました事お詫び申し上げます。武蔵国一の宮氷川神社、中山、氷川女体三社の宮調へ元祖「橘三喜」の墓前に拝礼する計画が左記の通り決定しましたのでお知らせいたします。会員並びに、多数の皆様のご参加をお願いします。

期日 平成十八年七月三〇日(日曜日)

受付 午前九時四〇分から十時まで

総会 午前十時から十二時三十分(昼軽食有り)

場所 東京・学士会館三〇二号室
東京都千代田区神田錦町三の二八

電話 〇三―三三―九二―五九三六

参加費 五千円(玉串料・貸し切りバス料・入会費・軽食代等含む)

巡拝地 午後一時出発～高速道路経由～大宮
氷川神社正式参拝～中山神社～氷川
女体神社(大祓式)～「橘三喜」高津
城拜礼～高速道路経由～東京駅帰着
午後六時予定

申込み 別紙申込書で七月十三日迄に申込み下さい
FAX 〇三―三三―八六五―二三三五

参加会費は巡拝会事務局へ七月二〇日迄にお振込
ください。

△お願い△ 郵便物到着確認の為、参加できない方も、FAXいた
だけましたら幸いです。

一の宮巡拝会事務局 創房関宮(有)内
〒666-0111 兵庫県川西市大和東
二-13-10 電話 〇七二-791-5158
五八 FAX 〇七二-791-5159

●入会金及び会費について
一般維持会員 年会費 三〇〇〇円
賛助会員 一口 三〇〇〇円(何口でも可
寄付金 お志し

●会費等お振込み先
郵便振替(大阪) 〇〇九九〇一五―
八二五五

小説「全国一の宮」調べ元祖

橘 三喜 (第二十六回)

郡 順史・作 梶 鮎太・画

三喜は主君鎮信公に逢うために江戸へ急いだ。

一口に江戸と言っても肥前平戸から江戸へは凡そ四百里(千五百キロ)。一日に十里(約四十キロ)道中したとて四十日はかかる。一だが今の三喜には精神的な意味もこめてもそんな余裕はない。なんとしても三十日以内に江戸へ入りたい。

とにかく三喜としては、再発見した壱岐「一の宮」天手長男命を祈る宮居を、今のままの假宮社から本格的なお社にしなければならぬ、でなければ申訳けない、そう思い詰めているのである。

むろん平戸を発つ前に、滝川國家老に面会し、主君の「御用繁多」の内容を訊き、江戸へ行く許しを乞うた。無断で旅立てば脱藩になるからだ。脱藩は重罪である。

はじめ滝川國家老は、主君の御用繁多の理由を言を左右にして仲々に話さなかったが、三喜の問いのするどさに「絶対に他言は無用ぞ」とことわって、遂に片鱗を告げた。それによると主君鎮信公は幕閣から主として九州肥前一带の「隠れキリシタン」の調査と検挙を秘密裡に命じられたという。

幕府がキリシタン禁止令を発令したのが六十三年前の慶長十七年、キリシタン一揆と言われた天草の乱が起こったのが三十八年前の寛永十四年十一月である。

幕府はこの天草の乱で、キリシタンの団結力と戦闘力の凄絶さに恐れを抱き、いまだに各所に逃げ隠れしている信者たち(いわゆる隠れキリシタン)を徹底的に捕え根絶やしにしようとしているらしい。

その点、肥前松浦藩は平戸に、つい先年までオランダ、イギリスの商館が有り、スペイン、ポルトガルの商人たち、それに混ってのバテレン達も横行していたゆえ、従って隠れキリシタンも数多いであろうと推測されるのは仕方無いことだ。

しかし主君が公儀の秘命を受けて行うキリシタンバテレンの摘発検挙と、壱岐の一の宮社安置の問題とは本質的に違う。むろん三喜にとっては百倍、千倍の尊貴さと重みに相違がある。

もし主君が如何にしても江戸を離れられず、壱岐平戸へ戻る寸暇も無いとするならば、どうすれば主君居らずとも本格的祭祀が出来るか、その方途を熟考し実行せねばならぬ。その為にも江戸へ行き、主君のご意向をしかと伺う必要があるのだ。

「おぬし、どうしても江戸へ行くか?」

三喜の決意を聴いて、滝川國家老は反問した。

「はい、参ります。このことが現在の私にとって何物にも替え難い大事でございますゆえ」

「うむ。おぬしの決意はよく判るが、殿は何と仰せられるか」

「寸暇も江戸を離れないご様子でございましたら、ご家老にご代理をお願いし、私が総ての段取りをととのえまして、ともあれお祈りいたし、後日の殿の正式のお祈りを待ちたいと考えております。だが—」

「だが、何だな」

國家老は、三喜がただならぬ顔つきになったので、ふつと姿勢を正すようにして訊いた。

三喜は寸時ためらう様子を見せたが、勇をふるうかのようにして口を開いた。

「私、この大事が無事に終えましたら、全国の一の宮様の巡拝に旅立つ所存にございます。むろんこの事も殿にお願い仕りお許しをたまわった上でございますが」

「なんと、全国の一の宮を一」

さすがの國家老も息をのんだ。

三喜とて緊張の色はとけなかった。

三喜の一の宮巡拝の願望は、壱岐の一の宮天手長男命の遺跡を再発見し、假宮居を建設している間に、天啓の如く全身をゆすってひらめいた

考えであった。いわば天の神のご指示と思う。

そして、いま、國家老に初めて口外、打明けたことによって、三喜の「全国一の宮巡拝」の決意は不動のものとなったのであった。(つづく)



切舟伴天連

郡 順史 プロフィール

大正11年、東京生まれ。明治大学卒業。昭和20年復員、昭和21年に雑誌編集者になり山手樹一郎の知遇を得る。

同27年、山手樹一郎を師と仰ぐ新樹会同人となり、「土道小説」と称される時代小説を書きつづり現在に至る。

一の宮巡拝会会報、一の宮調べ元祖『橘 三喜』を連載中。

日本文芸家協会会員・日本文芸家クラブ会員

一の宮巡拝会名誉会員。

主な著書『北の土魂—檜山佐渡の生涯』(青樹社)、『介錯人』

(光文社)、『土、意気に感ず—小説・竹中半兵衛』(春陽堂書店)

『日本の誇る侍たち』(大吼出版)・月刊『大吼』に連載中、他多数

奈良一の宮 シンポジウム & 社叢百景展

テーマは 「自他共生」

21世紀は心の世紀と言われ、人々は平和と癒しを求め、世界的に「共生」の心がクローズアップされ、世界中の人々が「自他共生／自分も他人も共に生きる」という事を真剣に学ぶ時代であると思われまます。

日本には古来各国に一の宮と呼ばれる神社がありました。そこは社叢が広がり今日まで維持されてきました。樹木が繁り訪れる人々に「癒し」を与えてくれます。また、それらの場所には古代王国の遺跡が数多く見つかっております。

当同好会は、その様な場所を隠れた癒しの観光資源として、お互いの情報交換を行いながら少しでも多くの人たちが観光に訪れることを期待して活動を行っております。今回、全国エコツアー観光同好会では日本のルーツともいえる奈良市内におきまして“奈良一の宮シンポジウム & 社叢百景展”を開催いたします。

奈良は世界文化遺産に指定されています。奈良市内は

都会でありながらすぐ近くには森が広がり、春日大社の近くには原生林が繁っております。

日本には古来から「共存」の思想があります。自然に恵まれた環境により、自然に共存共栄の考えが生まれたともいえます。奈良県は春日大社や東大寺をはじめ日本の貴重な文化遺産が沢山あります。

今回はアメリカからコウイチ・バッシ先生を講師としてお招きして、アメリカ人の物の見方考え方をお話いただくと共に、日本の古代史について、網干善教先生並びに、関西大学名誉教授 奥村郁三先生、秩父神社 宮司・京都大学名誉教授 藺田稔先生、東山泰清先生のご講演と齋藤盛之先生とアメリカ人のキッド青年とが日本全国の一の宮を旅して感じた記録などをもとにパネルディスカッションを行います。是非“奈良一の宮シンポジウム & 社叢百景展”にご参集ください。

奈良一の宮シンポジウム

社叢百景展

第一部 (午後1時～3時50分)

- 網干 善教 (関西大学名誉教授)

講演 ● 奥村 郁三 (関西大学名誉教授) テーマ「神道と“祓”」

講演 ● 藺田 稔 テーマ「古代国家と一の宮祭祀」

講演 ● コウイチ・バッシ テーマ「アメリカ人から見た神道」

講演 ● 東山 泰清 テーマ「神仏習合の意義」

第二部 (午後4時～6時)

◎ パネルディスカッション

- パネリスト
- コウイチ・バッシ (アメリカ椿大神社 禰宜)
 - 藺田 稔 (秩父神社 宮司・京都大学名誉教授)
 - 東山 泰清 (高野山蓮花院大阿闍梨)
 - 齋藤 盛之 (一の宮巡拝会顧問)
 - ダスティン・キッド (英語教師・巡拝会 北海道ブロック世話人)
- 司会／関口 行弘 (全国エコツアー観光同好会会長)
(一の宮巡拝会代表世話人)

第三部 (午後6時～7時30分)

◎ パーティー：会場『和食レストラン サガミ』

*会場の都合により、シンポジウムの参加申込は先着順に受付させていただきます、聴講証を発行いたします。
お申込は別紙申込書でご連絡下さい。

※敬称略

展示内容

- 一の宮の“絵画展”

…………… 関口 之洋

- 一の宮の“絵馬展”

…………… 木下 雅晴

- 一の宮の“写真展”

…………… 土屋 光彦

…………… 米沢 登

…………… 西阪 慶真



絵画展



絵馬展



写真展

*全国一の宮に関する情報、書籍、御朱印帳等の紹介及び頒布

【実行委員会事務局】

奈良一の宮 シンポジウム & 社叢百景展

「自他共生」

21世紀は心の世紀、
人々は平和と癒しを求め、
「共生」の心がクローズアップされ、
世界中の人々が「自他共生／自分も他人も共に生きる」
という事を真剣に学ぶ。

2006年
社叢百景展

9月16日(土)・17日(日)

奈良一の宮シンポジウム

9月17日(日) 午後1時
午後6時

網干 善教／奥村 郁三／コウイチ・バツリシ／菌田 稔
東山 泰清／齋藤 盛之／ダスティン・キッド

奈良市生涯学習センター

〒630-8357 奈良市杉ヶ町23番地

JR奈良駅から徒歩5分

近鉄奈良駅から市内循環バス、またはシャープ・白土・王寺方面行き、
神殿方面からは高畑・春日大社本殿方面行きバスで「大森町」下車、徒歩3分

主催：全国エコツアー観光同好会奈良支部

後援：奈良市 全国エコツアー観光同好会 一の宮巡拝会

